

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	全員の意識が高められるようになることが目標です。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	ホームの周囲の清掃等にも心がけ、近隣の方にも気持ちよく接してもらえるようにしていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	幅広く声掛けをしていける事がこれからの課題である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	これからの課題として取り組んでいきたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に取り組みながら反省等も兼ねて改善に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	消防訓練に町内会長をはじめ、町内の方々にも参加してもらっている。家族の代表の方へ連絡をするとともに協力を得ていく。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各種手続きを行う以外はホーム側から出向く事はないが、いつでもきていただけるようオープンにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	理解できていない職員が多いと思われる。研修の機会があれば参加していきたい。	○	人材育成のためにも研修に参加する機会を促す。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	パンフレットやポスターを事務所に掲示し、職員全員が目を通せるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に充分時間をとってもらい、説明し理解してもらっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情があった場合は、早急に職員間で話し合いを持ち、再発防止に努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、ホームでの様子を家族に送付している。金銭管理は管理者が行い、出納帳をコピーして毎月送付し、面会時に原本を確認しサインしてもらっている。	○ 県で苦情処理に付いての研修あり、参加予定。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に相談箱を設け、気軽に意見を書き入れてもらえるようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回施設長を含めた会議を行っている。意見を出し合い運営に反映させてもらっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その場の状況に応じて必要なローテーションを組んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	介護に関わる職員は大体3年程度で退職する傾向があるため、なるべく長く勤めてもらえるよう努力している。人間関係のトラブルはあっても介護に対する熱意は皆同じである為、チームワークを強固し、退職者を少なくすよう心がけている。	○	系列の病院・特養との人事交流が出来ればと考えている。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間、また運営推進会議で、入所者のご家族や近隣の住民の方々の意見を聴くようにしている。	○	職員の質の向上はグループホームの運営に不可欠である。日常の業務の中で注意していくのは勿論のこと、介護福祉士やケアマネ等の資格を取らせることが励みになると考える。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区グループホームネットワークはあるが、相互訪問はなく、総会で講演があるだけなので、これが充実してくれば職員の知識の高上、意識の高揚が期待できると考える。	○	可能であれば他のグループホームの見学や研修会への参加をしたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	女性には身体的に過酷な職種である為、忘年会・ビアガーデン等で忌憚のない意見を聴いたりしている。	○	職員の意見を聴く機会を更に増やしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	諸般の事情で長期にわたり欠勤する職員がいても、残りの職員で気持ちよく交代ができるように体制を整えている。病欠の職員でもなるべく待つようにしている。	○	研修会への参加を推進し、職員全員が職務のレベルアップが出来るよう取り組んでいきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自宅やデイへ出向いたり、ホーム見学だけでなく一泊体験をしていただくことで、ゆっくりと会話ができる機会を作っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホームの見学はいつでも自由にできるようにしている。在宅での不安・入居後の不安等、時間をかけて家族の話を書くようにしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅のケアマネージャーを通して来られるケースがほとんどである為、居宅サービスで限界を感じてホーム入居を検討されている。その経緯も確認して上で、在宅でのメリット・入居することで起こりうる危険性等も説明している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅・デイ・入院先等何度も足を運び顔なじみとなるよう努めたり、見学時に他の入居者と一緒にお茶を飲んでもらったり、一泊体験を通して馴染んでいただけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人との会話の中で、昔の苦労話に共感しながら、今現在のつらい事・希望等を訴えられる関係作りに努めている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとっては、自宅・家族が一番と思う。出来る範囲で利用者の希望に応えられるよう、家族とも連絡を取り合い協力を得ている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	いつでも面会できるようにし、家族が参加可能な行事等には声掛けを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者から昔住んでいた土地の名前等を口にされる事もあり、馴染みの場所や人との交流の必要性も感じているが、支援できていない。	○	家族等にも協力を得て支援できる方向で検討する。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ほとんどの利用者が日中ホールで過ごす中、居室で過ごされる方もいる。会話の機会が少なくなる為、職員が声掛けをするようにしている。ホールで過ごす利用者の中にも、会話がつかない方もおられ、職員が間に入るように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要な関係機関にはいつでも情報提供出来る事を家族にも伝えている。入院の場合は、面会に行き状態把握に努め、必要時はアドバイスも行っている。		
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を聞き、家族との話し合いの中で希望に沿ったケアが出来るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者これまでの経緯はサマリー等を使用し職員間で共有している。入居後も本人・家族から情報収集に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事・水分・排泄等全てチェックし、スタッフ・看護師の連携をとって申し送りによってスタッフ全員が把握できるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時・家族会等で支援方法について話し合う機会をつくり、1回/月、利用者の様子を文章にして郵送し、意見を聴いている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に応じ、適宜モニタリング・アセスメントを行い、本人・家族の意向を含めた計画の見直しを行っている。介護計画が遅れることがある。	○ 職員間で本人・家族の意向、利用者の状態を把握し、統一したケアが行えるようにしていく。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の前のページにケアプランを掲載し、職員がいつでも目を通せるようにしている。記録も「SOAP」で行い、職員の気づきが介護計画に反映できるようにしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業者の機能はまだ充分活かしきっていないと思う。	○ 利用者・家族の要望に応じ、柔軟な対応が出来るよう努める。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内会長の意見を聴いたり、近隣者より季節に応じた頂き物をする等、協力をいただいている。	○ もう一度踏み込んだ形で地域に密着していけるように努力する。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	リハビリが必要な利用者には医療機関の協力を得ながら必要に応じたサービスが提供できるように支援している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの関わりは少ない。	○	利用者のよりよい暮らしの可能性を広げるべく、地域包括支援センターとの関わりを持って行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医と緊急時の受診については家族に確認を行っている。入居前からかかっていた病院に継続してかかっておられるケースがほとんどである。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	それぞれのかかりつけ医に認知症状に対しても診察をうけているケースがほとんどである。認知症状の著しい進行が見られた場合は、家族と相談し専門医に診て貰っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	担当の看護師が中心になり健康管理を行っている。	○	職員も看護師の指示を仰ぐしながら必要な時に必要なチェック項目を行っている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院により認知症状の悪化を考慮し、可能な範囲はホームで治療できるようにしてもらっている。入院となった場合も医療機関との連携に努め、一日も早く退院できるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	緊急性のある利用者もおられる為、緊急時の対応に付いては 本人・家族・医療機関と話し合い、全職員で共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族・医師・ケアマネなど関係者で終末期をどのように過すか相談合い、全職員で共有して支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	本人・家族の意見を尊重し、グループホーム側と今後ケアに関わる側とで情報交換ができるようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	「さん」づけで利用者と呼ぶようにしているが、あだ名・ちゃんづけで呼んでしまうこともある。のプライバシー保持のためにホームにいるときは居室の戸は閉め、排泄時も介助にて戸が閉められない時はカーテンを閉めている。個人情報保護については、契約時に説明した通りである。	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	訴えの傾聴に努めている。なるべくそれぞれの利用者が思い通りに生活できるよう支援していきたいと考えるが、個々の希望を全て受け入れる事は難しい。	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	会話の中で希望を聞き、可能なことは対応するようにしている。職員側の事情が優先することが多い。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	希望の店があれば職員と一緒に出かけている。指定の店がない利用者を対象に、出張の床屋さんを依頼している。	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	何が食べたいか利用者に聞いてメニューを決めたり、季節を感じてもらえる食事の準備にも心がけている。食後は利用者の皆様がそれぞれ食器類をまとめて下さっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が希望する物を常に置いておき、希望時に渡せるようにしている。」		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間を見ながら声掛け・誘導を行っている。ズボンの上げ下げ等、出来る事は本人に行ってもらっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施しているが時間帯が限られている。時間が遅くなると面倒がられる方もおり、出来る範囲で本人が望む時間に入浴できるよう調整している。浴室内でもコミュニケーションは大事にしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夕食が終わると、それぞれの過ごし方をされる。早く休む方もいれば、テレビを見られる方もいる。居室は室温管理を行い、気持ちよく休めるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや調理の下ごしらえなど、それぞれの利用者の機能に応じた役割ができてきている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理している。事務所に預けている事を理解している方も多い。手元にないと不安がられる方もおり、管理が困難な場合は、職員が毎日確認を行っている。		


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望通りの外出は出来ていない。年間行事に沿って、花見や遠足等は全員で出かけている。天気が良い時は、ホーム周辺の散歩に出かけている。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	欲しい物があれば一緒に買い物に行く機会を作っている。家族との外出は制限していない。	○ 食材の買出し等、ホーム内の買い物の時に、利用者も一緒に行ける機会を増やす。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族に手紙を書いたり電話をする事は度々ある。電話の子機を使用してもらいゆっくり話をしてもらっている。	○ 手紙がかけなくなりつつある利用者もいる。離れて過す家族とのコミュニケーションの機会を継続する為にも、電話を活用していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時は家族と本人がゆっくり過せるよう配慮している。家族から希望があれば、ホームでの様子を説明している。	
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月の会議で報告・拘束廃止に努めている。安全面を考慮し、つい言葉により行動を押しやめてしまう事がある。	○ 「身体拘束の対象となる具体的な行為」を理解し、言葉も選んで使うようにしていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間職員が一人になる時間帯以外は、鍵はかけていない。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールで過ごされる利用者は一人での移動は危険である方もおられる為、常に見守りを行っている。また居室で過ごされる利用者も、急変の可能性のある方もおられる為、頻回に方室するようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物は手元に置かないようにしている。金銭は事務所で管理しているが、手元にないと不安がられる利用者もいるため、本人に渡し、職員が金額・保管場所を確認するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「インシデント」「ヒヤリ・ハット」のレポートを書き、会議で報告・対応策を検討している。防災訓練を定期的に行い、消防からの意見を参考に、改善に努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成している。	○	応急手当等の消防の講習を受ける方向で調整中。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間職員が一人の時間帯を設定して、消防訓練を定期的に行っている。訓練には地域の方にも参加していただき、避難方法を知っていただくよう働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族には細やかな現状の説明を行い、理解を得ている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルサインを測定、常に全身状態を観察している。入浴も観察の良い機会としている。異常時は看護師に報告し、素早い対応がとれるようにしている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の仕分けを行い、他の職員が与薬する。一つ一つの薬の把握は出来ていないが、変化に気づいたら看護師に報告している。	○ 薬の怖さを理解し、薬の説明書を見て薬の把握が出来るよう努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	バランスの良い食事・運動・水分補給に努めている。看護師も確認を行い、必要時は緩下剤や下剤を使用している。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分で出来る方は見守りを、困難な方は介助にて行っている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量をチェックし必要な量を確保できるようにしている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防対策委員会を設置し、委員を中心に会議で対応策を検討している。疥癬に関してはマニュアルあり。インフルエンザは毎年職員も利用者も予防接種を受けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週に1回衛生管理日を設け冷蔵庫内の清掃・賞味期限の確認・まな板等の消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	天気がよい日は玄関を開放し、立ち寄りやすいようにしている。	○	玄関が殺風景である為、雰囲気作りを検討中。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	道路に面している為、車の通る音や工事の音も響く。天井が高く明るい、天窓から光が差し込みまぶしい時間帯がある。	○	天窓にフィルム・ロールカーテン設置工事中。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は自分の席がほぼ決まっており、近くの他の利用者とは会話を楽しんでいる。座位が長い利用者には個人用の座布団を取り付け、ゆっくりとくつろげるようにしている。居室は個室になっているため、集団の中を好まない方は、居室で過ごされる。	○	毎日同じ時間にテレビ番組を見ることを楽しみにしておられる方もいるので、好きな時間を過してもらえるように配慮していく。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で長く使用されていたタンスや飾り物等持ってきてもらい、安心出来る空間作りに努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は小まめに行っている。ホール・居室に温度計を設置し、温度を確認しながら温度調整を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活を送れる ように工夫している	バリアフリーになっており、車椅子・シルバ ーカーで安全に移動できるようになっている。ホ ールに手摺も設置されているが、使用される方 はいない。浴室・トイレ等は必要な箇所に手 摺を設置している。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	一人ひとりの理解力・能力に合わせた支援を行 っている。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	建物の周囲は交通量が多く、ホームには庭も ない為、戸外での活動は少ない。	○ 近くに公園があるのでその周辺を活動の 場としていけることを日課としていき たい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	② ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	④ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	③ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	② ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	③ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	③ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者に季節を感じてもらえるように行事・食事等に力を入れている。統一したケアに向かって職員の連携を取り、細かなところまで観察できる「気づき」の点に努力している。